

『梅ちゃん先生』

放映開始によせて



片柳 鴻

学校法人片柳学園 創立者・学園長・理事長

わっていた。

昭和28年にはNHKがテレビ放送を開始。同年、「日本テレビ技術学校」を設立した本学では、校舎の窓に教育用テレビを設置し、多くの地元の方々にお楽しみ頂いた。

戦後の日本が力強く復興してこられたのは、当時の日本人に苦労を苦労とせず努力し、戦後の混乱期を乗り越えていくような

力強さがあつたからではないだろか。若者も生活のため、自分たちが勉強しなければという気概に溢れていた。

『梅ちゃん先生』では、こんな

時代の蒲田の街や人々がどう描かれるのかと懐かしく思い、楽しみにしている。また、番組と一緒に蒲田の街を盛り上げていけばと思つていて。

戦前の蒲田は閑静な東京のベッドタウンだったが、戦争に出征していた私が戦地から戻つてくると、平和だった街が一面の焼け野原と化しており、大きな爆弾の穴に雨水が溜まつていて愕然とした。それでも人々は、廃材にテントを張つて生活を始めて、夜になると裸電球が螢のよう

にそこここに灯つていたことを覚えている。

あつて蒲田に絵画の学校をつくることにした。加えて、技芸を身に付けることによつて生活を支える一助になることと思い、洋裁科を設置、翌年、編物科も開設した。生徒の中に守半総本舗のご令嬢、すなわち後のユザワヤの奥様がいらっしゃったのは、蒲田といふ街のご縁だろうか。

そして、日本経済がGHQ頼みから自立できるようになつた昭和25年頃から徐々に復興の兆しが見え、昭和39年にオリンピックが開催されるまでに発展した。蒲田駅東口には、土日には夜店が出て、水ヨーヨー等の子どもの喜び

復員して、一度は戦前に勤めた東芝に戻つたが、知人の勧めもG H Qから配給されたとうもろこしの粉でパンを作つたりもした。

舗道に並び大勢の親子連れで賑



昭和26年の蒲田西口銀座(写真提供:大田区)



昭和28年日本テレビ技術学校時代